魔法少女リリカルなのは　転生者による原作破壊の物語

のりにゃんこ

タテ書き小説ネット Byヒナプロジェクト
http://pdfnovels.net/

注意事項

このＰＤＦファイルは「小説家になろう」で掲載中の小説を「タテ書き小説ネット」のシステムが自動的にＰＤＦ化させたものです。
この小説の著作権は小説の作者にあります。そのため、作者または「小説家になろう」および「タテ書き小説ネット」を運営するヒナプロジェクトに無断でこのＰＤＦファイル及び小説を、引用の範囲を超える形で転載、改変、再配布、販売することを一切禁止致します。小説の紹介や個人用途での印刷および保存はご自由にどうぞ。

【小説タイトル】
魔法少女リリカルなのは　　転生者による原作破壊の物語

【Ｎコード】
Ｎ７９００Ｙ

【作者名】
のりにゃんこ

【あらすじ】
ある日神様のミスで死んでしまった事もなく偶然転生させられる事になる少年少女たち。　彼等は少しでも良い未来を創ろうと奮闘する。

EP00　～プロローグ～

俺は真っ暗闇の中で目が覚めた。

上も下も、前も後ろも、右も左も分からない、暖かく、心地の良い“闇”

そういえば死んだんだっけ。

そんな事を考えていると、不意に声をかけられた。

「おめでと～！君はこの度、見事転生者に選ばれました～！」

は？なに？このコードギアスのロイドさんっぽい声でロイドさんっぽい話し方するメガネは。

「なんで俺？つーか死んで漸く心地の良い場所に来れたのに。」

全くだ。末期の癌とか言われて一年苦しんだんだぜ？

っていうか、余命半年とか言われたっけ。今思うとすげえな。しかし享年十九歳か。我ながらびっくりだ。

まあ今更どうでもいいが。

「ふむ。君の疑問も尤もだ。簡単に言うと、十九歳までに死んじゃったで“魔法少女リリカルなのはシリーズ”について一定以上の知識か執念を持った人間を選び出し、その中から気に入らない奴を候補から外し、最終的に残った人間の内の一人が君だ。」

あ、真面目な口調になった。

「では特典を三つ与えろってことだから。ああ、ちなみに拒否権は無いから。」

えー無いの～。まあしょうがないか。

「じゃあ、“ジェイル・スカリエッティ”のフィッシュ数乗の頭脳をくれ。」

「はい一つ。」

「いいの？流石に無理だと思ったのに！」

「まあそんくらいなら。というか君、無理だと思ってるのに言うんだね。まあ、僕らそれ＋5位はあるから。まあ中には馬鹿もいるけど。」

そうなのか。意外にすごいなメガネ。

「あと二つだよ～」

急かすな。まじで。

「じゃあ、レアスキルメイカーがいい。」

「ああ、レアスキルが作れる奴だね。まあ、妥当かな。了解。」

あと一つか。そうだな。

「何でも覚えられて且つ効率が普通の百倍。できるか？」

「もちろんさ。まあ、そんな回りくどい能力を頼んできたのは君が始めてだが」

そうなの。割と便利なのに。

あ、そういえば。

「俺らが入る体ってのは産まれてくる赤ん坊なのか？というか新しく作られるのか？」

これが気になってたんだよな。二次創作じゃあよくあるけどどうなってんのかわからなかったし。

「特典に酷似した能力を一つ以上持った人間に入れるよ。まあそれで実現できない奴は新しく作るが。あと足りない特典は与えるから」

成る程。ん？

「実現できない奴ってのは？」

メガネは答えた。

「二次創作にたまにいるだろ？銀髪オッドアイとかさ。あと原作キャラの親族とか。流石にそういうものは落ちて（存在して）無いから。」

ああ～なる。

「神様って大変なんだね。」

一応労っておく

「ありがとう。ねぎらいの言葉をかけてくれたのは君だけだよ。」

ああ～　かわいそうに。

「よし、じゃあ記念に超ハイスペックな体にいれてあげるよ。」

はい？

「じゃあいくよ！キエエエエエエエエ！」

「掛け声かっこ悪！」

馬鹿な事言ってたら下に落ちていく感覚がして、

俺は意識を失った。

ＥＰ００　～プロローグ～（後書き）

グダグダな気がしますが、作者は初投稿なので大目に見てください。

ＥＰ０１　～古代ベルカの王的なものになりました～（前書き）

書き換えました

ＥＰ０１　～古代ベルカの王的なものになりました～

なんか暖かい液体の中にいる感覚がする。

ああ、転生させられたんだっけ。

あれ？

ＳＩＤＥ　科学者

漸く長年の研究の成果が出る。

古代ベルカに存在したという二人の王

聖王と覇王

最近の研究で明らかになった“騎士王”と呼ばれる、彼等と同時期に生き、共に戦ったとされる第三の王。

その三人の遺伝子情報をもとに人造魔導師を創る計画。

プロジェクト　ＥＭＰＥＲＯＲ

今日はその完成体を稼働させる日だ。

おや？もう時間か。さて、完成度はどの程度か記録せねば。

ＳＩＤＥ　ＯＵＴ

ＳＩＤＥ　名前はまだ無い転生者

ごぽっ　という音と共に周りの水がぬけていく。

まだ目はあかない。

「おお！これが完成体か！」

ん？なんか色々声が聞こえるな。

ちょっと耳を傾けてみるか。

「はい。まだ溶液を抜いたばかりなので目はあきませんが。」

若そうな声だな。

「で、身体スペックの方はどうなっている？」

じじいみたいな声だ。

「はい。魔力値の方はＡＡＡ＋～Ｓ－って所ですね。あと筋力などですが、今の状態でストライクアーツの達人級かその少し下くらいでしょうか。知能に関してはまだ分かりません。」

「ふむ、そうか。色々な薬品を投与して耐性を調べて見ようと思うから第二研究室まで運んでくれ。」

ちょっと待てじじいいいい！俺を殺す気か！
次の瞬間、俺の意識は赤く染まった。

ＳＩＤＥＯＵＴ

ＳＩＤＥ研究者Ｂ

「な……リンカーコアが暴走状態に？いや、違う！これは……」

いきなり実験体に異常が発生した。

「な……何が起こっておる？完成体の体が赤く光出したぞ？」

リンカーコアに暴走に近い症状があらわれた。

そして

「広域殲滅魔法発動。“ワルプルギス・ナハト”　並行詠唱“デアボリック・エミッション”広域殲滅誘発魔法“フェアツヴァイフルング”発動」

まるで、機械のような感情の無い声が聞こえた。

実験体の両手に白い光と黒き闇が顕現する。

そして二つの魔力が干渉しあい、

灰色の“絶望”が全てを染めた。

ＳＩＤＥＯＵＴ

ＳＩＤＥ転生者

「死ぬかと思った。っつーかなんで生きてんの俺？」

［ああ、それは君のレアスキルが発動して広域殲滅魔法を放ったからさ。］

メガネの声がした。神様だもんね！驚いたら負けだよね！

「いや、でも俺デバイス持ってないんだけど？デバイス無しじゃ魔法使えないんでしょ？」

［君は面白い事を言うね。その手に持っている魔導書がデバイスだよ。ああ、名前は覇天の魔導書　”アルトリア”だ。大事に使ってくれたまえ。あと研究者達は生きてるから殺人はしてないよ。しかし記憶を消した上でランダム転移はしたようだけど。］

え、何それ怖い。

まあ同情はしないが。まあ同情はしないが。

大切な事なので二回言いました。

と言うかデバイスの名前、何てｆａｔｅ？

ああ、それより聞きたい事があったな。

「何で人造魔導師に入れられたのか納得できる説明を求む。」

［ハイスペックな体で検索して一番性能が良くて、一番容姿が普通な体を選んだらそうなった。］

「一応聞いておこう。他はどんな容姿だったの？」

［肌の色が青とか、トカゲ男みたいなばかりだったが］

神様ありがとう！人間（スペックは化け物レベル）になれて良かったよ！トカゲとか苦手だったから！

所でココ、どこ？

ＥＰ０１　～古代ベルカの王的なものになりました～（後書き）

なんか本当にグダグダですごめんなさい。
感想等寄せて頂けると嬉しいです。
それでは次回　原作っていつだっけ？　をお楽しみに！

ＥＰ０２　原作っていつだっけ？

「神様～ここどこ～？」

気になったので聞いてみる。

［ん？えーと……あった。第１３５管理不可世界　通称　竜王の庭園だね。旧暦の４６２年に発生した次元断層の影響の調査中に発見された世界で、地質調査用次元航行船フューチャーがこの世界の物質を積んで飛び立とうとした時に巨大な竜の火炎弾で撃墜されてから管理不可世界とされているね。なにも持って帰ろうとしなければ何もされなかったそうだが。ちなみに今は新暦の６２年だよ。あと余談だがこの竜は生体ロストロギア　竜王　とされているね。］

何それ怖い。

「あー、竜王の他には何が住んでんの？」

［ふむ。竜種が６０００種類、魚類が９０００種類、鳥類が６０００種類、爬虫類、両生類が９０００種類、哺乳類は４００種類ほどで人間はいない。文明レベルなし。大きさは地球の３０倍。平均気温２６度って所かな。あと重力が地球やミッドチルダの１２０倍だね。さっき君がいた所ではミッドと同じくらいになってたけど。あと研究者達は全員この世界には居なくなったようだね。居住区は残っているみたいだから住む所には困らないね。あとはドックは残っているからデバイスとかも作れるよ］

「なんと言うご都合主義……」

どんなだ。まじで。

［えーと……重力変動装置は残っていないみたいだ。その身体は君の特典で効率が１００倍になっているようだからもう大丈夫みたいだね。］

うわー何でも覚えられて且つ効率が普通の百倍すげー。

［あと言い忘れてたけど特典には一部デメリットが付くんだよね。］

「はあ？なんですと？」

いきなりだったので驚いてしまった。

［ごめんね～。忘れてた。あ、寿命縮めるとかは無いから安心していいよ。］

まあ確かに、何のデメリットも無くできるわけ無いよね。

「じゃあ俺にはどんなデメリットがあるんだ？」

［君の場合は、効率が百倍は食事量百倍、頭脳は普段は記憶力以外は二倍までに抑えられる、レアスキルメイカーは言ったと思うけど作ったら魔力枯渇。この三つだね。］

うわー　制限されても普通だー　食事量百倍以外は。

いや、待てよ？頑張って通常の百倍腹が膨れるアイテムを作ればいいのではないだろうか。

よし、そうしよう。食費の為に。

まあしかし

「それ程酷いデメリットじゃなくてよかった～」

うん、本当に良かった。

［確かにね。因みに魔力ＥＸとかだとリンカーコアが覚醒するまで極度の運動音痴になったりするよ。あと銀髪とかだと下手したらアルビノになっちゃうね。まあせっかくだから命に別状がないようにはしたが］

うん。色素が限りなく少なくなるって事だもんね。ってか今おかしな事言わなかったか？

「もしかして、それ頼んだ人いたの？」

［うん。いたよ。デメリットは聞かなくていいぜって言ってたから言ってなかったが］

そのあと思いっきり愚痴られた。精神的に死ぬかと思った。

神様の話ではそいつはもうデバイス持って魔法使えるようになってるし銀髪も家系にしたそうだ。

魔力値ＥＸとか相手にしたくねー

よし、極力原作に関わらないよう努力しよう。

ＥＰ０２　原作っていつだっけ？（後書き）

転生者「ねえ。名前はいつ出てくるの？」
作者　　「んー　次くらいじゃね？あとＤＱＮネームにすると思うから。」
転生者「うわー　よりによって厨二な名前になると言うのか。」
神様　　「あと海鳴の家についてはそのうち俺が用意するから」
転生者「結局介入する事になるのかｏｒｚ」

ＥＰ０３　どうしてこうなったｏｒｚ

どうも皆さんこんにちは。

名前が無いのでオリジナル（？）の名前を借りている、『ヴィンセント・リヒテンシュタイン』です。

今現在、原作が始まる頃の新暦の６５年です。

そして現在地は時空管理局次元航行艦『アースラ』です。

どうしてこうなった！

以下回想

～三年前～

「取り敢えず、海鳴に家を作るのは闇の書事件が終わってからでお

願いします」

俺は今非常に困っている。

魔力値ＥＸで海鳴産まれなんて特典をつけた奴がいるからだ。

折角の第二の人生棒に振りたく無いもの！

魔力値ＥＸで海鳴って事はとんでも無い事になりそうだもの！

［面白くないけどそこまでするならいいよ］

俺、今絶賛土下座中である。

その甲斐あってか何とか諦めてくれたようだ。

［まあ、その代わりに幾つか言う事聞いてもらうから］

なん……だと……？

何とかして回避しなけ　［異論は認めない♪］ちくせう……

「もういいよ……で、何すればいいのさ」

［うん。まずはそっちの時間で言う３０年位前に送った転生者（故人）が作った管理局の制度があるんだけど］

そんなに前にも送ってたんだ。因みに現時点で何人いるんだろ転生者。

［僕以外の神様が送ったのを合わせると、数えられない程度には。話戻すけど、その制度、ギルド制度っていうんだけど］

モンハンのギルドみたいな物ですね分かります。

［概ね合ってるよ。で、そこで傭兵、まあハンターみたいな物だね、に登録していくつか依頼をこなして欲しいんだ。因みに理由は見たいからだから］

まあそれくらいならいいか。リンカーコアの研究とかしたいし。

違法魔導師の逮捕位あるだろ。

んで、無力化と称してリンカーコア抜けばＯＫと。

［素敵な出会いを用意しておくよ……ふふふ……］

ん？なんか言った？

［いや、何も］

ー翌日

時空管理局第１管理世界支部ギルド課

「ようこそ、時空管理局第１管理世界支部ギルド課へ。ご用件はなんでしょうか。」

「傭兵登録に来ました。」

つ、疲れた……

第１３５管理外世界からは滅茶苦茶遠かった。

一応外見年齢は１１歳位にしている。神にこの年齢がちょうどいいと言われたからだが。

なんでも登録はここでしかできないそうな。しばらく往復したら修行になるかもな……

で、迎えてくれた人が……

「はい、ありがとうございます。受け付けのエイミィ・リミエッタです。では、こちらの書類に氏名、年齢を記入して、同意しますに丸を付けて下さい」

「あ、分かりました。」

神様ェ　ぜってー態とだ。そうに違いない。

書類の内容（一部）

氏名　ヴィンセント・リヒテンシュタイン

年齢　１１歳

例え任務で死亡したとしても管理局を恨んだり、訴訟を起こしたりはしません。　また、以下の内容に同意します。

一つ　受けた任務は最後までやり遂げる。また、解約する時は報酬金額の二倍を支払う。

一つ　数人の傭兵と共同で依頼に当たる際、揉めない。また、報酬金額は人数で等分にする事。ただし、双方同意の上ならば取り分は好きにして良い。その場合、書類に示しておき、ギルド課窓口に届けておく事。

一つ　執務官、又はそれに準ずる者の行う試験に定期的に参加する事。この時、失格又は不参加の場合、傭兵登録を抹消する。試験は半年周期で行う（都合が悪い場合は一週間まで猶予が与えられる）。

ｅｔｃ……

読むのめんどくさい。　同意します　っと。

「できました。」

ほい、と手渡す。

「はい、承りました。ヴィンセント・リヒテンシュタイン様ですね。あ、同い年なんだ～よろしくね」

いきなりフレンドリーになったなおい！

「いやー雰囲気が大人っぽかったからね。あ、公私はちゃんと分けるからね。っと、じゃああっちの部屋に居る執務官の人の認定試験を受けて来てね～」

何で考えた事に返事が来るんだろ神でもあるまいに。

「顔見てたら大体わかるよ？あとは勘かな？」

勘、怖え

さっさと指示された部屋に言った。家に帰って寝たい。

試験、面接室

とりあえずノックをする。

「どうぞ」

中に入った。面接だからめっちゃ緊張するわ～

「試験官のクロノ・ハラオウンだ。座りたまえ」

いや、予想はしてたけどね。高橋　さんっぽい声だと思ったから。

「えーと、傭兵志願者のヴィンセント・リヒテンシュタインです。よろしくお願いします」

軽い心理テストのような物をうけた。

「では次に実技試験に移る。これから僕が撃つ攻撃を回避し、攻撃を一撃で良いので僕に当ててくれ。制限時間は２０分だ」

訓練用の部屋に連れて来られた。

クロノ・ハラオウン試験官はもう既にＳ２Ｕを起動させている。

「アルトリア、セットアップ」

初起動である。

【Ｊａｗｏｈｌ　！　Ａｎｆａｎｇ！】

うん、川澄さんの声だよ。

とりあえず騎士甲冑を装備する。

コードギアスのランスロット見たいなイメージだ。

「開始する！」

直後、魔力刃がすぐ横を通過した。

すぐに戦闘モードに切り替える。騎士王の経験は伊達じゃない！

三本四本と魔力刃が飛んでくる。すべてを躱す。当たりそうな物は逸らす。そして徐々に近づく。

集中する。

「剣を！」

【ａｓｃａｌｏｎ　ｆｏｌｍ　Ｉ！Ｅｘｐｌｏｓｉｏｎ！】

手にシグナムのレヴァンティン（カードリッジの所にあるのがリボルバー）が現れる。

さらに三回のカードリッジロード。

「龍牙一閃！」

圧縮された魔力を放出する！

「合格だ。正直防御が間に合わなかった。しかし、戦闘終了後に魔力枯渇で倒れるな。実戦では（ｒｙ」

やりすぎたような気がします。

アルトリアは性能は凄いが反動もすごいことが分かりました。

まあ原因は俺の実力不足なのですが。

劣化版を作ろうと思いました。

小一時間クロノに説教食らいました。

「ありがとうございました」

……その日は疲れたので礼をして帰った。

ー　数ヶ月後

「リミエッタ。依頼番号１２９８５次元犯罪者ラカイ・モブーキャを捕まえて来たぞ。あと無力化すんのにリンカーコア抜いてあるから」

顔に針がささったおっさんを引き渡した。

「報酬金額の５０００００Ｇだよ」

うは、ぼろ儲け。ＳＳクラスは伊達じゃないな。

因みに報酬金額の半分は仲介料として管理局が持って行くので俺が貰ったのと同じ金額を管理局も貰って居る。そしてぼろ儲け。

あれからあったことを簡潔にのべるとこうなる

・リミエッタやクロノと友人になり、リンディ提督と知り合った。

・聖王教会の任務でカリム・グラシアに会った。

・ブラックリストに載っている転生者（全てがＳクラス以上の広域次元犯罪者）にやたらと遭遇した（オリ主になるんだーとかほざいていた）。

・クロノと模擬戦をするようになってからクロノの実力が上がり、原作の倍以上に強くなった（階級に変化なし）。

・レアスキルメイカーでマルチタスク１００倍を作ったり、監視用スフィアの応用で無限書庫を読破（４ヶ月）した事で『歩く無限書庫』なんて言う称号がついた。

ー　そして新暦６５年３月

クロノに呼び出された。

「おう、クロノどうした？話があるって」

問いかける。

「何、頼みたいことがあってな」

「頼みたい事？なんだよ」

「実はこれから数ヶ月、航行任務があるんだが、少し遠くまで行く事になるから、『歩く無限書庫』であるヴィンセントに応援を頼みたい」

おお、クロノが自分から頼んで来るなんて珍しい、と思って、

「了解」

と、答えてしまった。

この時期の次元航行は無印に突入だと言う事を忘れて。

冒頭へ戻る。

ヴィンセント・リヒテンシュタインは、こうなった経緯を思い出しながらため息をついた。

自分に充てがわれた部屋の窓から見える、青く綺麗な水の惑星第９７管理外世界　通称地球を眺めながら。

こうなるように仕組んだ神様に愚痴をこぼしながら。

ＰＤＦ小説ネット発足にあたって

ＰＤＦ小説ネット（現、タテ書き小説ネット）は２００７年、ルビ対応の縦書き小説をインターネット上で配布するという目的の基、小説家になろうの子サイトとして誕生しました。ケータイ小説が流行し、最近では横書きの書籍も誕生しており、既存書籍の電子出版など一部を除きインターネット関連＝横書きという考えが定着しようとしています。そんな中、誰もが簡単にＰＤＦ形式の小説を作成、公開できるようにしたのがこのＰＤＦ小説ネットです。インターネット発の縦書き小説を思う存分、堪能（たんのう）してください。

この小説の詳細については以下のＵＲＬをご覧ください。
http://ncode.syosetu.com/n7900y/

魔法少女リリカルなのは　転生者による原作破壊の物語

2011年12月17日05時48分発行